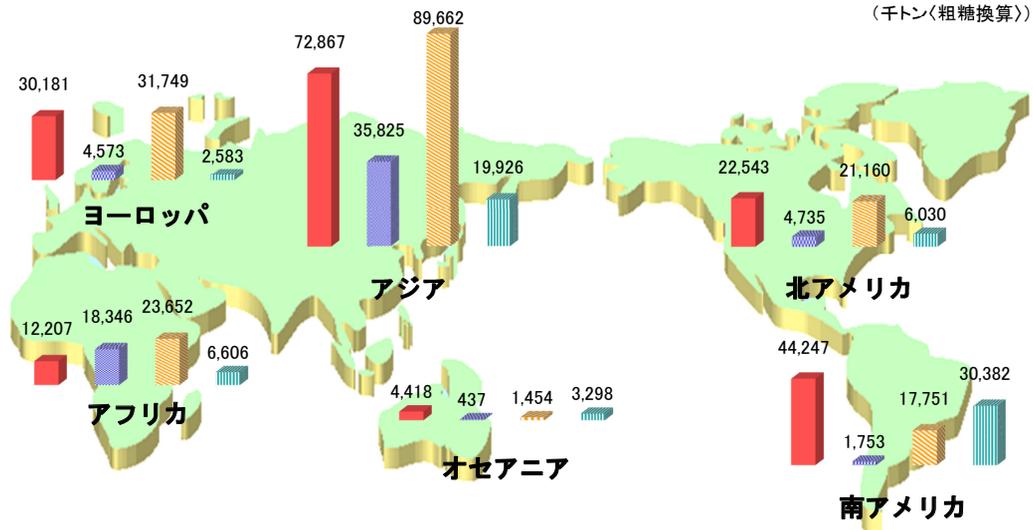


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2022年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2022年3月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2021/22砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8646万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比2.3%増）とわずかに増加すると見込まれる（表1）。南アメリカでは主産地であるブラジルの生産量減少の影響を受けて前年度を下回るものの、その他の地域では前年度を上回る見

通しである。

また砂糖消費量は、ブラジルで減少するものの、主要消費国であるインド、EU、インドネシアを筆頭に増加が見込まれ、全体としては1億8543万トン（同0.3%増）と横ばいで推移すると見込まれる。

期末在庫率は、生産量の増加に伴い上方修正され、前年度比1.3ポイント減の40.2%と見込まれる。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,550	65,794	180,581	67,847	81,226	45.0
2018/19	81,226	186,490	61,054	184,247	61,525	82,998	45.0
2019/20	82,998	181,283	69,333	181,131	72,065	80,419	44.4
2020/21	80,419	182,322	67,119	184,808	68,322	76,731	41.5
2021/22 (2021年12月予測)	75,817	183,862	63,391	187,532	64,983	70,554	37.6
2021/22 (2022年3月予測)	76,731	186,462	65,669	185,429	68,825	74,608	40.2

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

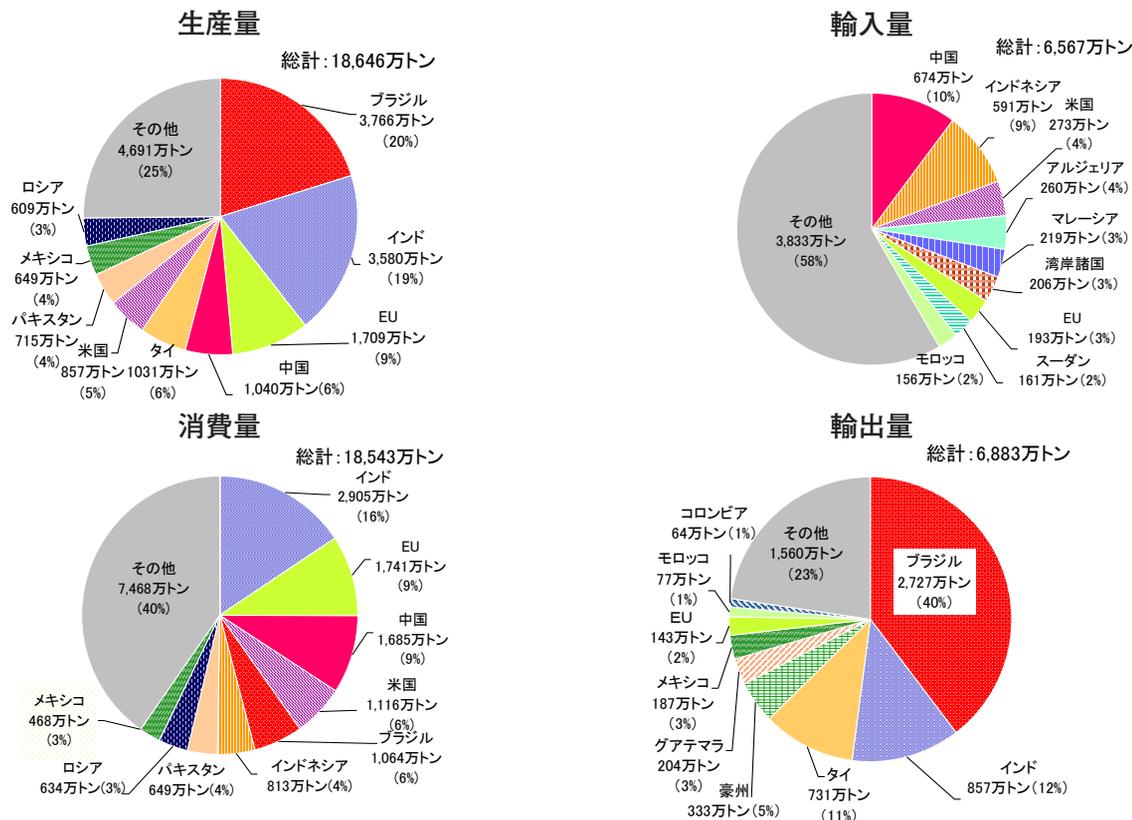
注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2022年3月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2021/22年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2022」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

生産量第1位のブラジルは、干ばつや霜害などの影響を受けて3766万トン（前年度比15.6%減）とかなり大きく減少するものの、世界の砂糖生産量の5分の1を占めると見込まれる（図2）。

続くインドは、サトウキビ生産量第2位のマハラシュトラ州と第3位のカルナータカ州で豊作が見込まれるため、3580万トン（同6.4%増）とかなりの程度増加し、首位のブラジルに迫る水準となることが見込まれる。

また、てん菜糖が主体となるEUにおいては、干ばつを記録した前年と比べて生育期の降雨量が多く、大規模な病虫害も発生していないため、1709万トン（同12.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

【輸入量】

輸入量第1位の中国では、2020年に引き続き2021年も国内需要を上回る量の砂糖を輸入したことで、国内在庫の積み増しが想定されることから、674万トン（前年度比16.7%減）と大幅に減少するものの、世界の砂糖輸入量の1割を占めると見込まれる。

続くインドネシアは、家庭消費の砂糖需要の増加に伴い591万トン（同1.2%増）とわずかに増加し、首位の中国に次ぐ水準となることが見込まれる。

【消費量】

消費量第1位のインドは、人口の増加や砂糖需要の回復に伴い、2905万トン（前年度比1.3%増）とわずかに増加し、世界の砂糖消費量の16%を占めると見込まれる。

続くEUは、砂糖需要の回復を受けて1741万トン（同4.0%増）とやや増加が見込まれる。

長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国は、1685万トン（前年度同）と横ばいで推移し、EUの水準をやや下回ると見込まれる。

【輸出量】

輸出量第1位のブラジルは、砂糖の減産のほか、コロナ禍における物流の混乱を背景とした海上運賃の高騰を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などでブラジル産の粗糖需要が低下していることから、2727万トン（前年度比19.9%減）と大幅に減少するものの、世界の砂糖輸出の4割を占めると見込まれる。

続くインドは、前回予測では687万トンと第3位だったものの、国際価格の上昇による輸出意欲の高まりを背景に上方修正されて第2位に順位を上げ、857万トン（同0.3%増）と横ばいで推移すると見込まれる。

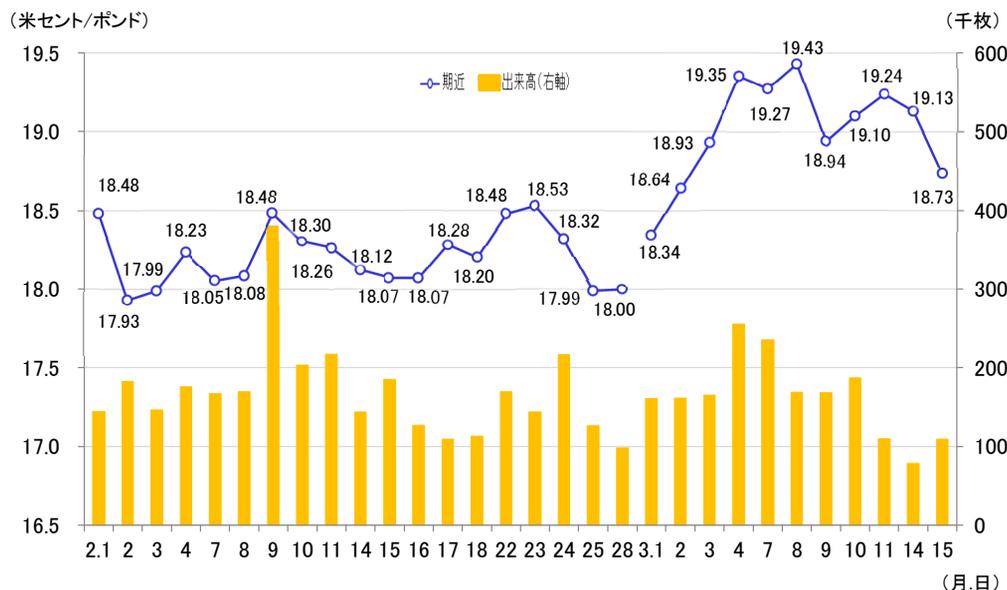
タイは、731万トン（同85.0%増）と大幅な増加が見込まれるものの、砂糖生産量の下方修正（「5. 日本の主要輸入先国の動向」で後述）とインド産砂糖輸出量の上方修正に伴い、第2位から第3位に順位を下げると見込まれる。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (2/1 ~ 3/15)

～2月は目立った動きがなく18セント台で推移、3月上旬にかけて急上昇し19セント台を突破～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：2月は期近3月限、3月は同5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2022年2月の推移を見ると（3月限）、1日は、最近の原油高を受けてブラジルの製糖業者がエタノール生産量を増やすとの思惑から、1ポンド当たり18.48セント^(注1)まで値を上げた。2日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が同国中南部地域における1月前半のエタノール販売量が前年同期比で大幅減となったと発表したことを受けて、エタノールの減産による砂糖の増産予測が市場に広まり、同17.93セントまで急落した。4日は、原油価格の上昇^(注2)に伴い同18.23セントまで値を上げた。9日は、商品先物や金融市場が上向く中、同18.48セントまで上昇した。10日は原油価格の動きを受けて下落に転じ、15日は同18.07セントまで値を下げた。22日は、原油価格の上昇やリアル高^(注3)に伴い、同18.48セントまで上昇し、23日も同18.53セントと続伸

した。25日は、原油価格の落ち込みを受けて同17.99セントまで下落した。28日は、国際砂糖機関（ISO）が2021/22年度における世界の砂糖不足量を前回予測から縮小したことで伸び悩み、同18.00セントで3月限は納会した。

期近が5月限に切り替わった3月1日は、ロシアのウクライナへの軍事侵攻を背景に原油価格が急上昇する中、同18.34セントを付けた。原油価格の急上昇を受けて、砂糖相場も上昇し、4日は同19.35セントまで値を上げた。7日は、原油価格が上げ要因となったものの、2月末時点の砂糖生産量が前年同期を上回ったとインド製糖協会（ISMA）が前週末に発表したことを受けて、同19.27セントまで下落した。8日は、原油価格の上昇を背景に、同19.43セントまで再び上昇した。9日は、原油価格の下落や、来年度のブラジル産砂糖生産量の増加を

大手金融企業が予測したことにより、同18.94セントまで急落した。10日は、ブラジルの国営石油公社による燃料価格の引き上げが同国の製糖業者によるエタノール生産量を増やすと想定されたことで、同19.10セントまで上昇した。11日は、原油価格の上昇に伴い、同19.24セントまで値を上げた。15日は、原油価格の落ち込みを受けて、同18.73セントまで下落した。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料

であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が低下する。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年3月時点予測)

ブラジル

2021/22年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：868万ha (前年度比0.3%増)

生産量：5億7850万トン (同12.0%減)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：3766万トン (同15.6%減)

輸出量：2727万トン (同19.9%減)

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく減少し、輸出量も大幅に減少する見込み

2021/22年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、868万ヘクタール (前年度比0.3%増) と横ばいで推移すると見込まれる (表2)。サトウキビ生産量は、中南部地域において乾燥気候が継続した上、7月などに霜害も発生したことにより5億7850万トン (同12.0%減) とかなり大きく減少

すると見込まれる。砂糖生産量は、サトウキビの減産を受けて3766万トン (同15.6%減) と、依然としてかなり大きく減少すると見込まれる。輸出量も同様に、砂糖の減産や、コロナ禍における物流の混乱を背景とした海上運賃の高騰を受けて、インドネシアやアフリカ諸国などでブラジル産の粗糖需要が低下していることから、2727万トン (同19.9%減) と大幅な減少が見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

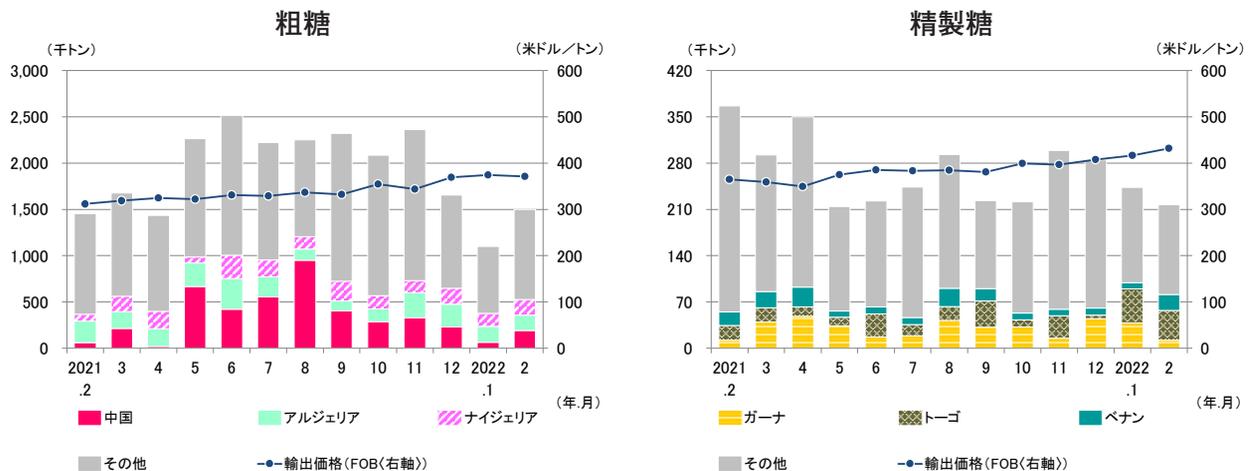
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (2月予測)	2021/22 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,651	8,676	8,676	0.3%	
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,432	582,500	578,500	▲ 12.0%	
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,597	38,080	▲ 15.6%	
	輸入量	4	5	5	5	1.9%	
	消費量	10,374	10,842	10,996	10,756	▲ 3.3%	
	輸出量	21,017	20,321	34,042	27,579	▲ 19.9%	
	期末在庫量	3,132	3,777	3,341	3,091	▲ 7.4%	
	期末在庫率	10.0	12.1	7.4	8.1	8.2	0.7ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

インド

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：505万ha(前年度比3.3%増)
生産量：4億2475万トン(同5.6%増)

【砂糖(甘しゃ糖)】

生産量：3580万トン(同6.4%増)
輸出量：857万トン(同0.3%増)

2021/22年度の砂糖生産量と輸出量は、前月予測から上方修正

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、505万ヘクタール(前年度比3.3%増)とやや増加が見込まれる(表3)。主産地の降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億

2475万トン(同5.6%増)とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した10月頃の大雨の影響が当初の見込みより小さいとみられるほか、主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州のサトウキビ生産量が予想を上回っていることを要因に前月予測から上方修正され、3580万トン(同6.4%増)とかなりの程度増加すると見込まれる。

輸出量は、砂糖の国際価格の上昇による輸出意欲の高まりを受けて前月予測の736万トンから上方修正され、857万トン（同0.3%増）と横ばいで推移すると見込まれる。

2021/22年度2月末時点の砂糖輸出契約数量、前年同期の約2倍

ISMAは3月4日、2021/22年度（10月～翌9月）2月末時点の砂糖輸出契約600万トン（前年同期比1.9倍）のうち、実際に輸出された量は420万トンに達したと発表した。3月中には、さらに120万～130万トン分が輸出され、3月末時点の砂糖輸出量は540万～550万トン（同1.8倍）と見込

まれている。ISOが同年度の世界の砂糖需給バランスを193万トンの不足と予測していることや、同国産砂糖をさらに購入したいという砂糖輸出業者の関心の高まりを考慮し、ISMAは同年度の砂糖輸出量の予測値を600万トンから750万トンに上方修正している。

一方、同年度1月末までの国内の砂糖実売量は912万トンで、前年同期の877万トンから4.0%増加したと推定されており、政府が定める3月の砂糖の販売割当数量も前年から60万トン引き上げられている。これらを踏まえISMAは、同年度の砂糖消費量の予測値を上方修正し、2720万トン（前年度比3.8%増）と見込んでいる。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

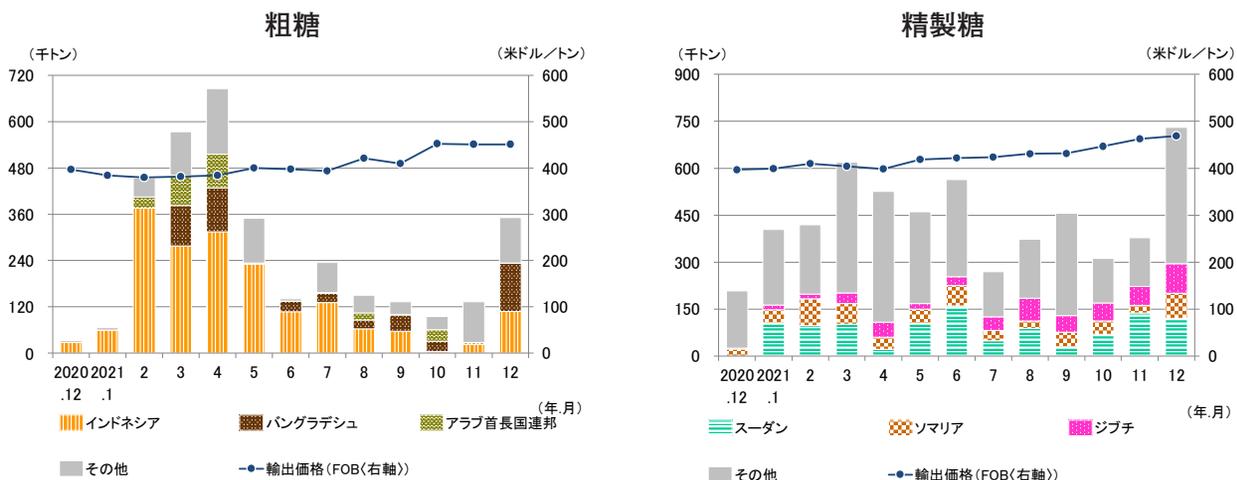
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (2月予測)	2021/22 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,888	4,993	5,050	3.3%	
サトウキビ生産量	404,528	369,849	402,033	418,495	424,745	5.6%	
砂糖	生産量	35,798	29,544	33,642	34,397	35,798	6.4%
	輸入量	664	1,687	1,022	108	216	▲78.9%
	消費量	27,540	27,108	28,679	29,052	29,052	1.3%
	輸出量	5,483	8,254	8,538	7,356	8,566	0.3%
	期末在庫量	14,963	10,833	8,279	6,375	6,675	▲19.4%
	期末在庫率	45.3	30.6	22.2	17.5	17.7	4.5ポイント減

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2022]

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

中国

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：112万ha（前年度比3.6%減）

生産量：7389万トン（同0.4%増）

【てん菜】

収穫面積：14万ha（同37.8%減）

生産量：712万トン（同42.5%減）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1040万トン（同9.8%減）

輸入量：674万トン（同16.7%減）

2021/22年度の砂糖生産量はかなりの程度減少し、輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール（前年度比3.6%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省の天候が良好であったため、7389万トン（同0.4%増）とわずかに増加すると見込まれる。一方、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへの転作の増加により^(注1)、14万ヘクタール（同37.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。てん菜生産量も、収穫面積の減少や冬季の寒波などを背景に、712万トン（同42.5%減）と大幅な減少が見込まれる。

砂糖生産量は、原料の減産に加え、てん菜収穫期間中に発生した大規模停電による製糖工場の操業停止や、降雨によるサトウキビ収穫の遅滞などを受けて1040万トン（同9.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き2021年も国内需要を上回る量の砂糖を輸入したことで、国内在庫の積み増しが想定されることから、674万トン（同16.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

（注1）同国では、アフリカ豚熱からの回復による豚飼養頭数の増加を受けて、飼料用トウモロコシなどの需要が高まりを見せている。詳細は、2021年6月17日付海外情報「中国農業展望報告（2021-2030）を公表（飼料編）（中国）」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002967.htmlを参照されたい。

農業や農村の近代化推進計画を発表、サトウキビの収量や品質の向上を目指す

中国国務院は2月11日、第14次5カ年計画（2021～25年）^(注2)に基づく、農業や農村の近代化の推進を目的とした計画（農業と農村の近代化推進に関する第14次5カ年計画：機構仮訳「十四五」推进农业农村现代化规划）を発表した。これによると、農作物の生産基盤の強化や供給の安定化、農業分野の技術開発による競争力向上、農村部での産業発展、農村のインフラ整備、農村での生活様式における低炭素化、貧困からの脱却促進などを進めるとしている。

砂糖産業については、主要なサトウキビ生産地である広西チワン族自治区および雲南省の生産能力の向上、砂糖の輸入先の分散によるサプライチェーンの安定化、収量の低い圃場の改善の迅速化、農作業の機械化が可能な大規模な圃場の拡大が記載されている。

（注2）中国の経済および社会の発展に係る国家計画（「国民経済・社会発展第14次5カ年計画」）で、2021年3月に発表された。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

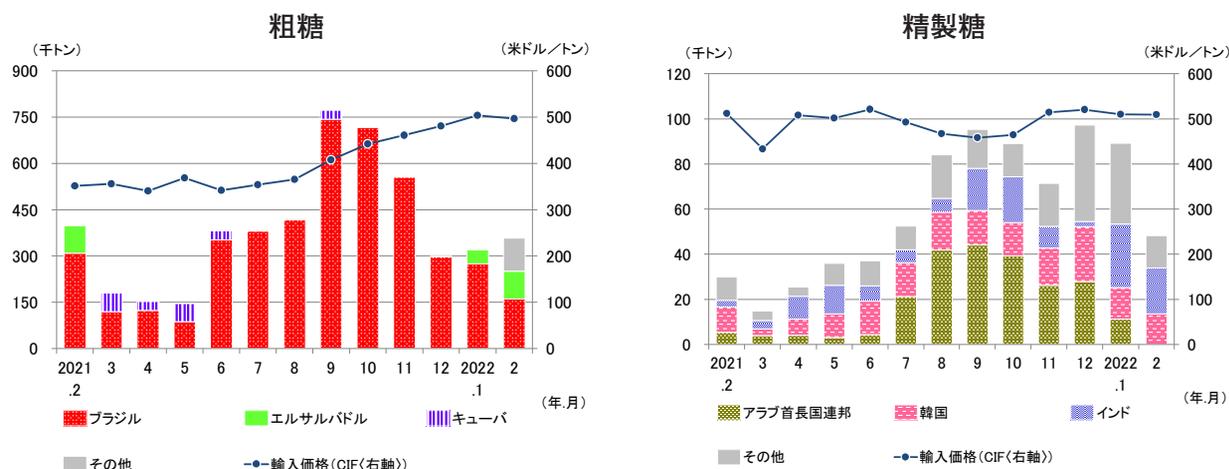
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (2月予測)	2021/22 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,115	1,115	▲3.6%	
サトウキビ生産量	78,590	76,231	73,600	73,890	73,890	0.4%	
てん菜収穫面積	243	213	231	144	144	▲37.8%	
てん菜生産量	11,670	10,900	12,380	7,391	7,117	▲42.5%	
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	10,709	▲9.8%	
	輸入量	5,038	6,594	8,091	6,412	▲16.7%	
	消費量	16,522	16,414	16,849	16,849	0.0%	
	輸出量	210	192	132	130	▲2.0%	
	期末在庫量	11,218	12,465	15,105	15,249	15,273	1.1%
	期末在庫率	67.0	75.1	89.0	89.8	90.0	1.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：146万ha(前年度比1.4%減)

生産量：1億1011万トン(同11.9%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1709万トン(同12.9%増)

輸出量：143万トン(同13.4%増)

2021/22年度の輸出量は、かなり大きく増加する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は、146万ヘクタール(前年度比1.4%減)とわずかな減少が見込まれる(表5)。てん菜生産量は、干ばつの影響を受けた前年と比べ、今期は生育期間

の降雨量が多く、生育状況が順調であることから、1億1011万トン(同11.9%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、2021年末以降スペイン南部で発生している干ばつの影響を考慮して前月予測からわずかに下方修正されたものの、てん菜の増産を受けて1709万トン(同12.9%

増) とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、生産量の増加などを踏まえ、143万トン(同

13.4%増) とかなり大きく増加すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (2月予測)	2021/22 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,601	1,517	1,476	1,461	1,455	▲1.4%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,420	111,763	110,107	11.9%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,138	17,153	17,089	12.9%
	輸入量	2,349	2,230	1,888	1,858	1,932	2.3%
	消費量	17,578	17,156	16,738	17,310	17,409	4.0%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,386	1,430	13.4%
	期末在庫量	1,740	2,349	1,375	1,656	1,557	13.2%
	期末在庫率	8.7	12.6	7.6	8.9	8.3	0.6ポイント増

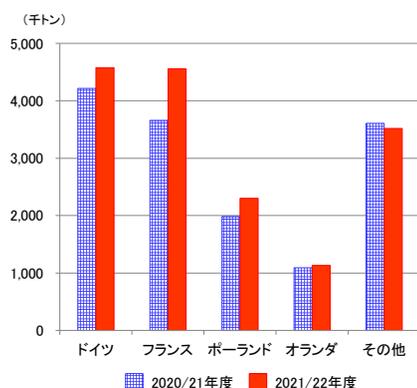
資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2022」

注1: 2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合(2022年2月時点)

EUの砂糖生産見通し

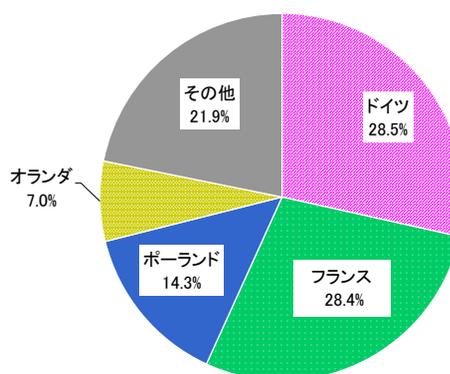


資料: 欧州委員会

注1: 精製糖換算。

注2: 2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度は予測値。

国別の生産割合(2021/22年度)



資料: 欧州委員会

5. 日本の主要輸入先国の動向(2022年3月時点予測)

近年、日本の粗糖(甘しや糖・分みつ糖<HSコード1701.14-110>)および甘しや糖・その他(同1701.14-200)の合計)の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2021年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%(前年比0.03ポイント増)、タイが13.4%(同2.9ポイント増)となっており、2カ国でほとんどを占めている(財務省「貿易統計」)。

豪州

2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.2%減）
生産量：3011万トン（同3.1%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：415万トン（同5.3%減）
輸出量：333万トン（同0.9%減）

2021/22年度の砂糖生産量は、やや減少する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.2%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3011万トン（同3.1%減）とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による都市封鎖や主力製糖工場での機械故障などによる稼働率の低下、収穫期終盤の豪雨による収穫作業の遅れなどが影響し、415万トン（同5.3%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、生産量の減少を受けて、333万トン（同0.9%減）とわずかに減少すると見込まれる。

東部で発生した洪水により、ニューサウスウェールズ州の圃場が浸水

豪州の東部では、2月末から豪雨が続き、サトウ

キビの主産地であるクイーンズランド（QLD）州南部およびニューサウスウェールズ（NSW）州北部を中心に大規模な洪水が発生した（QLD州は国内生産量の95%程度、NSW州は残りの5%程度を占めている）。

現地報道によると、NSW州のサトウキビ圃場の一部で浸水被害が発生した。同州のサトウキビの平均的な栽培期間が2年間である中、2年目のサトウキビの大部分は無事とみられるものの、栽培1年目で生育途中のサトウキビの生育が今後大きく阻害されると同州のサトウキビ生産者協会の代表は予測し、現時点で全体の50%以上のサトウキビの喪失を懸念している。同州ではサトウキビのほかに、大豆やマカダミアナッツ、米、畜産などへの被害も確認されている。なお、QLD州のサトウキビが受けた被害については、3月11日時点で確認できていない。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (2月予測)	2021/22 (3月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	379	364	354	350	350	▲ 1.2%
サトウキビ生産量	32,493	30,046	31,074	30,114	30,114	▲ 3.1%
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,385	4,154	▲ 5.3%
	輸入量	18	17	10	15	47.5%
	消費量	1,044	1,085	1,041	1,062	▲ 0.3%
	輸出量	3,562	3,449	3,357	3,103	▲ 0.9%
	期末在庫量	971	747	744	783	▲ 26.3%
	期末在庫率	21.1	16.5	16.9	18.8	12.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）
生産量：8800万トン（同32.0%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1031万トン（同29.3%増）
輸出量：731万トン（同85.0%増）

2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と横ばいで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中、主産地の降雨量が平年並みまで回復し、単収が大きく改善することで、8800万トン（同32.0%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、可製糖率（CCS）の低さ^{（注1）}や、グリーンハーベスト^{（注2）}の普及を背景とした梢頭部^{しょうとう}や葉などの混入が製糖効率を低下させていることから、前月予測から下方修正されたものの、1031万トン（同29.3%増）と大幅な増加が見込まれる。

輸出量は、サトウキビが記録的不作となった前年度からの反動を受けて、731万トン（同85.0%増）と大幅な回復が見込まれる。なお、期末在庫量は、増産見込みながらも、輸出量の大幅な回復から455万トンと前年度よりも減少し（同9.7%減）、期末在庫率も42.0%（同24.8ポイント減）と2019/20年度に近い水準にまで大幅に低下すると見込まれる。

（注1）サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。平年よりも降雨量が多いことが影響し、同年度の平均的なCCSは前年度より2%ほど低い12.6%で推移している。

（注2）サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。

表7 タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

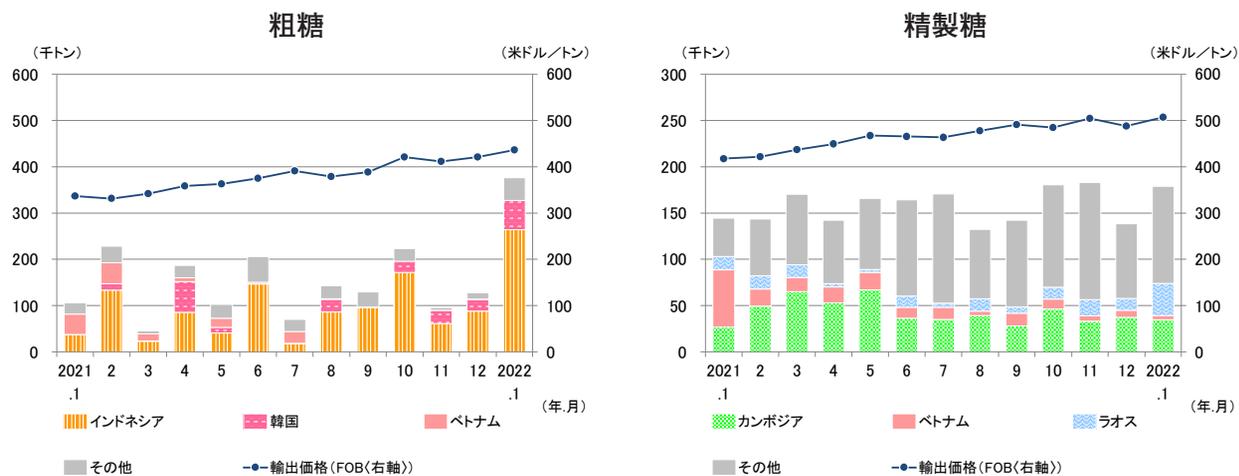
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (2月予測)	2021/22 (3月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,500	88,000	32.0%
砂糖	生産量	15,457	8,801	7,971	10,966	29.3%
	輸入量	4	59	86	3	▲59.5%
	消費量	3,737	3,773	3,592	3,521	▲2.0%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,966	85.0%
	期末在庫量	7,899	4,525	5,041	4,523	▲9.7%
	期末在庫率	57.0	37.0	66.8	39.4	42.0 24.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。